

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.197

2018年12月4日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

倒立前転のポイントをつかもう

保健・体育部会
授業研究会

保健・体育部会が養父市の小学校において授業研究会をおこないました。5年生「器械運動（マット運動）」の単元で「倒立からスムーズに前転をおこなう必要なポイントをつかむ」という内容でした。子どもたちの実態として、9月の運動会ではブリッジや肩倒立、補助倒立をおこない、多くの子どもができるようにはなっていました。しかし、マット運動に対して、まだまだ苦手意識を持っていたり、自分の動きがイメージできなかつたりする子どもも多く、技の特性やポイントを正しく理解できていないことが現状として見られるようです。



授業は、はじめに既習事項の開脚前転や開脚後転などの技を音楽や手拍子に合わせておこない（リズムマット）、自分や友だちの身体の調子を確認しました。次に、前時に学習した補助倒立について確認した後、倒立前転のポイントについて考えていきました。その際、子どもたちは、タブレット端末とプロジェクタ

による動画を参考に、倒立から前転に移るための必要なポイントについてつかんでいきました。そして、グループで補助したり教え合ったりしながら実際に倒立前転の技にチャレンジしていきました。できた子には、タブレット端末のアプリ「Replay Cam」（遅延ソフト）を活用し、自分自身の姿を可視化することで、より美しく技を見せるためには、どうすればよいかを考えることができました。最後には、希望者一人ひとりが倒立前転を披露し、クラス全体で認めあって、授業を終えました。

授業後の研究会では、参観者から「難しい技だったが、子どもたちは意欲をもってとりくんでいた」「導入のリズムマットで、子どもたちが生き生きととりくむ姿が大変印象的だった」「中学校においても柔軟性に課題がある。系統立てたカリキュラムの必要性を感じる」「柔軟性を高めるには、体育以外の遊びの場面も重要である」といった意見が出されました。

協力研究所員からは「体育はできる子、できない子のはっきりしているが、苦手な子もできるようになりたいという気持ちが伝わってきて、子どもたちが高揚感を高める授業内容だった」「苦手な子が声を出せるクラスだった。普段からの学級経営や子どもたちどうしの認めあう関係づくりがきちんとできている」という話がありました。



今後も兵庫教育文化研究所保健・体育部会では、子どもたちを中心にすえた「わかる授業・楽しい学校づくり」をめざして研究を続けていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)